

アウクスブルク市滞在記

中川 萌生

この度、令和六年度尼崎市青年使節団員の一員としてアウクスブルク市に派遣をしていただきました。今回の派遣を通して新たな価値観と出会うことができました。いくつかのトピックに分けて、簡単ではありますがご紹介させていただきます。



↑アウクスブルグ市庁舎

ホームステイ

私自身初めての経験となるホームステイ。どのような人たちなのか、英語はどれくらい通じるだろうか、仲良くやっていけるだろうか。不安がないといえぼうそになりますが、不安よりもわくわくと楽しみな気

持ちのほうが大きかったことを今でもはっきりと覚えています。初めてご家族にお会いしてから10日間は本当にあっという間でした。一緒にいる時間も一日のうちで長いようで短い、そんな中でもたくさんのことを教えていただきました。私が一番驚いたことは、「食べ物や文化は東西で別れているのではなく、南北で別れている」ということです。ベルリンの壁があったことから、後世に影響を与えているのだとすれば東西であると思い込んでいました。ですがホストファザーによると、陸に面しているか、海に面しているかで食べるものや伝わる文化に違いがあったのではないかとおっしゃっていました。このことは私にとって本当に驚くことで、固定概念がひっくり返された感覚だったことを今でも覚えています。やはり現地に行って、その土地や人に触れることで、もっとその文化の奥まで知ることができるのだと痛感した経験でした。

アクティビティ及び視察

どのアクティビティも本当に印象深いのですがその中でもノイシュヴァンシュタイン城と教育施設が印象に残っています。ノイシュヴァンシュタイン城は現地のガイドの方がたくさんのことを解説してくださり、歴史深いことがとても印象に残っています。ノイシュヴァンシュタイン城につい

ては研究テーマのレポートにて詳しく記載しているため、内容を割愛しますが、言葉にできないほど荘厳で圧倒される、そんな印象でした。

次にドイツの教育機関について、ドイツの教育機関は日本と全く異なることに驚きを覚えたことを今でも鮮明に覚えています。教育機関というより教育環境が違うと言った方が正しいかもしれません。就労支援の手厚さと幅の広さはいうまでもありません。一度就労に失敗した人や障害、病気など何らかの理由で就労ができなかった人に向けて州をあげて就労支援をしていることが大きな特徴だと感じました。およそ80種類以上もの職業訓練をすることができる施設を構えており、その人にあった職業訓練をすることができます。また家が遠い人のためにシェアハウスを提供していることも大きな特徴と言えるのではないのでしょうか。日本には学校はありますが、就労支援のためのキッザニアのような学校はないのではないのでしょうか。州全体で就労支援を行う姿勢に驚いたと同時にその仕組みを維持できることの凄さを実感しました。

アウクスブルク市での生活を通して

今回たくさんの人にお世話になったと同時に、本当に自分は恵まれているのだなということをあらためて感じました。他のホームステイのご家族もとてもフレンドリーでやさしくて心が温かい人ばかりだなと感じました。ガイドの方々をはじめ、現地の施設案内を行ってくださった方々や、この旅程を組んでくださった方々のおかげで、自分はこんなにも有意義な研修視察をする

ことができたのだと、改め実感しています。この経験は私にとってかけがえのない経験で財産となるに違いありません。未来の後輩にもこの素晴らしい経験と感動を味わってもらい、その一人一人に思いをつなげていけたらいいなと感じています。

この経験を糧に、私自身も未来へとつなげていけるよう精進したいと思います。



↑ 職業訓練施設学校の標識